

2019年度 活動報告(2019年4月1日~2020年3月31日)

■2019年度を振り返って

2019年度は第6期中期計画(2019年度~2021年度)の初年度でした。中期目標は次の通りです。

- (A) 誰もが「ここに住み続けたい」と思えるような、地域の居場所、地域の出会いの場、活動を活性させる場をつくりあげる
- (B) 中間支援組織として、これまで培った成果をまとめ、今後の活動に活かす。
- (C) 子育てしやすい社会に向け、子どもをめぐる地域のつながりの促進に寄与する。

メサ・グランデは障がい者の地域活動を支援する居場所として、多様な人の居場所「地域活動支援センター」を開設して4年目に入り、少ないスタッフ数にも関わらず利用者は比較的安定した時間を過ごすことができるようになりました。さらには、キッチンスタッフのサポートをしてくれる利用者さんたちを見ると今後の一つの可能性を感じさせました。諸般の事情から、今期は残念ながら専門職のスタッフを誕生させることができませんでした。

カフェ事業では、新メニューの導入とレシピのマニュアル化により、ベテランスタッフの不在を「協業」スタイルへと転換することができましたが、売り上げへの貢献はまだ模索中です。2019年4月からの働き方改革の実施に伴い、対象スタッフ全員が年間少なくとも5日間の有給休暇を取得できるようになりました。

中間支援組織としては、これまでの成果を基に、支援してきた団体のフォロー調査を行い、ぐらす・かわさき 20周年に向けての成果としてまとめを行い、これからの発展にどうつなげるかという道筋をつけることができ、来年度の総会を目指しての工程表を作成しました。

「遊友ひろば」は、登戸区画整理事業の進展を見極めながら、ボランティアによる運営委員会体制で事業を継続できました。地域に根差した新たなレンタルの利用もいくつか加わりました。利用者の高齢化に加えて、新型コロナウイルスの影響で利用が大幅に減少したため、来たる5月末の賃貸契約更新をめぐる家主に条件を交渉しましたが、これ以上の値下げは見込めなさそうです。

健全なNPO法人の運営として、単年度の「黒字化」をめざし、スタッフが安心して働ける職場を目指しましたが、今期は達成することができませんでした。

◆2019年度の会員数

	正会員個人	正会員団体	賛助会員	合計
2018年度末	90名	8団体	13名	111名
2019年度末	75名	8団体	11名	94名

※個人会員の入会が2名、脱退が15名、賛助会員の脱退4名、個人会員から賛助会員への変更2名でした。

■2019年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施(定款第5条(1))

収益:93,000円(予算:0円)・費用:33,000円(予算:0円)

(担当理事:江田)

①さまざまなグループへの参加と応援

これまで同様、市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援していきます。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「公益財団法人かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（前田・田代）
- ・「三田まちもりカフェ」（町田）
- ・「柘中寺子屋運営委員会」（池上）

他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていきます。

②他団体に団体会員としての参加

○次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行います。

「NPO 法人フリースペースたまりば」、「NPO 法人ワーカーズコレクティブ協会」、「NPO 法人アクションポート横浜」、「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」、「NPO 法人たすけあい多摩」、「川崎商工会議所」、「登戸東通商店会」、「新城南口商店会」「柘中寺子屋運営委員会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力します。

「公益財団法人かわさき市民しきん」

○また、次の団体に協力団体として参加します。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

■成果/課題：

ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体（「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」「教育に憲法を生かす川崎市民の会」）や、ぐらす・かわさきの活動から別組織化した団体（「地域通貨たま運営委員会」「公益財団法人かわさき市民しきん」「三田まちもりカフェ」「柘中寺子屋運営委員会」）など、ぐらす・かわさきのミッションに合う活動グループへの参加を通して、連携・ネットワークの強化を図りました。

(2) コミュニティビジネス（CB）を支援するための事業の企画・実施（定款第5条(2)）

収益：309,920 円(予算：200,000 円)・費用：448,349 円（予算：401,577 円）

コミュニティビジネス支援事業

（担当理事：広岡、スタッフ：前田・宮田）

メサ・グランデの土日祝日を活用し、会員または継続的に利用している団体に限り、ワンデイシェフ・貸しスペース事業やイベント開催を行いました。2020年3月からの新型コロナウイルス感染症対策により、予定されていたイベントはやむを得ず全て自粛しました。

○主な利用実績

- ・ボードゲームカフェ（NPO 法人わくらボ主催）年間 30 回開催
- ・チャリティレストラン（ワンワールド・ワンピープル協会主催）年間 5 回開催
- ・コミュニティビジネスに関する講座等への場の提供
 - ①「café の学校 in かわさき」（日本政策金融公庫・川崎市産業振興財団と共催）
全3回のうち、第3回「接客オペレーション」講座の場の提供 9月18日
 - ②「コミュニティビジネスの現場を見に行こうツアーin かわさき」

■成果/課題

ワンデイシェフは既存の方の継続利用や新規の問い合わせもあり、必要とされていることが感じられました。貸しスペース事業は「ボードゲームカフェ」、「チャリティレストラン」などは定期利用として定着しましたが、新型コロナウイルス感染症対策により、イベント再開時期の見込みが立たない状況です。

(3) 障がい者を支援する事業の企画・実施 (定款第5条(4))

収益：19,103,767円(補助金：12,485,275円・売上：6,534,331円・寄付：30,102円、
その他：54,059円、予算：21,150,000円)・費用：19,703,314円(予算：20,837,800円)

地域活動支援センター メサ・グランデ事業

(担当理事：小林・伊丹、スタッフ：前田瑞穂・前田知花・和出・新堀・今田・神田・伊藤・大森)

利用者が求めている過ごし方を尊重しながら特性を活かした作業に携わってもらうことで、利用者自身の満足感や自信につながられるような運営を目指してきました。個別支援計画会議での計画の立案と振り返りを通じて、利用者の情報や評価の共有を図り、支援員が各利用者の意思やペースを尊重しながら対応することに重点を置きました。料理の下ごしらえや盛り付けの手技ができる利用者も加わり、スタッフと協力しながらキッチンで生き活きと活躍する光景が毎日繰り広げられています。作業をした利用者には、工賃という形で還元をしています。

スタッフ研修では、和泉短期大学教授・社会福祉士の鈴木敏彦先生による「障害福祉サービスにおける虐待をなくすために」というテーマで研修を行い、障がい者と同じ空間でかかわる私たちが注意すべき点や虐待に至らないための視点を学びました。虐待の防止は、障がい者の真の気持ちを理解することから始まるもので、障がいによる生きづらさに多面的に寄り添う一歩であるということに気づかされました。

地域のお祭りにも積極的に参加してきました。利用者が支援員とともに弁当・おしるこ・綿菓子・手作りおかきなどを販売し、メサ・グランデの売りに貢献しました。こうした活動は、利用者和社会との接点を広げることにつながっています。生産性を生み出す新たな活動として、草木染めを物販につなげる予定でしたが、工程の難しさに試行錯誤している状況です。

メサ・グランデの広報という面では、カフェの新ホームページ開設や外部グルメレビューサイト「食ベログ」での情報発信、ブログやFacebook、InstagramなどのSNS発信を積極的に行い、集客に努めました。地域活動支援センターの情報を必要としている方向けのホームページも、基本情報の公開までこぎつけましたが、カフェのホームページとともに、内容の充実が今後の課題です。2019年度は、カフェの業務改善をすすめた年でもありました。一つは、2019年10月の消費税増税と軽減税率の実施にあわせたエアレジ(POSレジアプリ)の導入です。もう一つは、全てのスタッフが同等に調理対応できることを目指したメニューの改革です。手順の統一化・マニュアル化により、作業の属人化を解消し、利用者のカフェ作業介入が可能になるなど、業務効率は各段に向上しましたが、売上(特に弁当)は低迷しています。さらには社会問題となっている新型コロナウイルス感染症のまん延による影響で、客数は減少し配達弁当は無期限中止になるなど、追い打ちをかけた売上の減少は大きな痛手となっています。

今年度も「たちばな農のあるまちづくり推進会議」にも引き続き参加し、企業の縁農ボランティア仲介やカフェでの八百屋運営などを通じて、地産地消や都市型農業の継承に貢献してきました。

また月に1回、「めさみーる+」と称した地域の誰もが共に食事ができるイベントをボランティアと食材寄付により開催し、地域と人をつなげ、多面的に食のセーフティネットを広げてきました。

さらに、メサ・グランデを活用して食支援を行っている4つの団体の活動を、NPO法人セカンドリーグ神奈川がハブとなり「ビーバーリンク@武蔵新城」として集結させ、フードバンク神奈川からの食支援を受ける形で展開することで、フードロス削減にも貢献しました。

NPO法人アクションポート横浜がコーディネートする大学生インターンシップや、企業や役所の職場体験研修の受け入れ等を行い、将来の地域活動の担い手の育成にも寄与してきました。

○主な利用実績

- ・地域活動支援センター 開所日数：235日、延べ利用者数：1323人
- ・めさみーる+ 年間11回開催、延べ参加者数：566人、延べボランティア人数：102人

■成果/課題

地域活動支援センターの年間の実利用平均利用者数は5.63人と、安定して推移しました。就労を希望する利用者も出てきたことから、今後も安定的に利用者数を維持するため、広報や他の施設との連携を図っていく必要があります。個別支援計画会議を支援員全員で行い、情報を共有することで、利用者の意思に沿った支援につながる基盤を整えてきました。今後は、利用者の個別性に配慮した対応ができるよう、支援員全体での仕組みづくりに着手したいと考えています。

カフェの作業をスタッフと利用者が協働で運営できる体制を整えたことは、コミュニティカフェと地域活動支援センターの融合による相乗効果を考えると、大きな成果であったといえます。今後は課題となっている売り上げの低迷を打破すべく、リピーターの定着を図るために顧客満足度を高める商品への改善努力が必要と考えます。カフェのホームページ、情報グルメサイト「食ベログ」への掲載など、SNSを駆使した広報と集客は、次年度も引き続き積極的に取り組みます。

「ビーバーリンク」の結成により、メサ・グランデを活用して食支援を行う各団体の負担を軽減でき、継続的な活動への足掛かりとなりました。

2020年3月からの新型コロナウイルス感染症対策の外出自粛などの影響は、今後も拡大すると予測されることから、安定した収入源の確保が喫緊の課題となります。

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(5))

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業/上記(4)の通り

②遊友ひろば事業

収益：2,917,027円(予算：3,520,000円)・費用：3,308,358円(予算：3,450,000円)

(担当理事：池上・町田)

幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化するため、ひろば運営に関心のある有志ボランティアで運営委員会を設け、以下のような事業を行いました。

○地域住民等への活動場所の提供

(担当ボランティア：池上・秋山 他)

定期利用はやや減少傾向ですが、新規利用も入りました。例えば「己書つちぼとけ道場」は、筆ペンを使って手軽に柔らかな雰囲気の手紙を楽しむ講座で、初めは集客に苦戦していたものの、急成長しました。単発利用では、昨年度に引き続き、親子連れのパーティ利用なども一定の需要がありました。また従来なかった例として、テレビ局のロケ撮影や控室としての利用もありました。

- ・キッチン付き貸スペース…1時間1,200円(地域通貨たまを200たまで使用可)。

新規利用者が2時間以上利用する場合は、初回1時間無料。

- ・荷物保管用引出し等…1 カ月 500 円
- ・手紙の受け取り場所としてのレターボックス…1 カ月 300 円
- ・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）

○健康麻雀

（担当ボランティア：瀬川・町田 他）

主に年配者が麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図るためのプログラムです。

・初級者サロン…火曜 13 時～17 時、1 回 1,200 円（地域通貨たまを 500 たままで使用可）

和気あいあいと楽しく、いつも笑いが絶えません。「生きがい」と感じている方もいます。介護やご本人の病気などでお休みされる方も増え、2019 年 8 月あたりから 3 卓のときもありました。新型コロナウイルス感染症対策で、2020 年 3 月から休止していますが、利用される方からは「早くまた麻雀をやりたい」とのお声を多くいただいています。

・健康麻雀サロン…金曜 10 時～15 時、1 回 1,500 円。（地域通貨たまを 500 たままで使用可）

年間利用平均 4 卓を目指しましたが、登録者数が 2 名減ってしまい（現在 18 名）、通院や旅行などの予定と重なると、2 卓になるときもありました。年度の後半では、面子が足りないときに麻雀が得意な男性が二人ボランティアで参加してくれたため、活気がでました。

○乳幼児親子向けサロン「親子ひろば」（不定期開催）

（担当ボランティア：池上）

モンテッソーリカフェ等の特色ある人気講座を軸とし、共働き家庭でも参加しやすい休日の開催などを検討する予定でしたが、マンパワー不足で実現できませんでした。

○土井さんのオーガニック料理教室

（担当ボランティア：町田・宮下、講師：土井由美子さん…ぐらす・かわさき会員）

季節料理、行事をとりいれつつ「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べる（身土不二）」を基本とし、体調に合わせた料理をつくるコツを学ぶプログラムです。20～60 代と幅広い世代が参加しています。参加者の仕事が忙しくなったり、結婚・出産などと重なったりで、3 回しか開催できませんでした。男性も増え話題が広がり、参加者同士が LINE でつながり、家での復習料理を投稿するなどして、盛り上がっていました。

- ・利用料：1 回 2,500 円（地域通貨たまを 100 たままで使用可）

○放課後ひろば（食事付き寺子屋）

（担当ボランティア：町田・川口・高崎・徳田・小野・江田、講師…地域のボランティア、調理…多摩区食生活改善推進員連絡協議会（ヘルスマイト））

小学生から中学生に学びの楽しさを伝え、学習できる居場所を提供するプログラムです。2016 年から「川崎市地域子ども・子育て活動支援助成事業補助金」を受けて実施している「軽食サービス」は、毎回飽きないように配慮されたメニューとなっています。食物アレルギーがある生徒への対応も、ヘルスマイトさんが工夫してくださっています。食事時間は、学校の行事や先生の話、部活の話などで学校の様子もわかり、学年を超えた交流もできて楽しいひとときです。3 月は、新型コロナ対策による一斉休校期間中の木曜日に、昼食とボードゲームと学習支援をセットにした特別寺子屋を 2 回実施しました。希望者のみの参加でしたが、「楽しかった」と好評でした。また、この春、第一志望の高校に無事合格した生徒が体験談を話しに来てくれました。次年度からは中学生の利用が減るため、増員が課題です。

- ・開催日：月曜日、教科：算数・数学・英語、利用料：1 時間 500 円

○主な利用実績

- ・初級者サロン 実施回数：45回、参加者延べ：688人（1回平均15人）
- ・健康麻雀サロン 実施回数：44回、参加人数延べ：524人（1回平均12人）
- ・オーガニック料理教室 実施回数：3回、参加人数延べ：20人（1回平均7名）
- ・放課後ひろば 実施回数：43日、参加者延べ：247人（1回平均6名）

■成果/課題

年間の事業収益に加えて、会員・利用者の皆さまからいただいた寄付や、放課後ひろば事業の補助金も活用しましたが、新型コロナの影響も大きく、大幅な赤字となってしまいました。運営にあたるボランティアスタッフは生業を抱えている者も多く、それぞれ少しずつ時間を割いて遊友ひろばの運営に携わっているため、マンパワー不足が恒常的な課題となっています。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

収益：7,610円(予算：50,000円)・費用：88,894円(予算：169,000円)

(担当理事：田代・薬袋、担当スタッフ：宮田)

①広報

ぐらすレターは6月（総会報告、今年度事業の紹介など）、9月・12月（中間報告など）、3月（下半期の報告、総会のお知らせなど）の年4回発行、ぐらす・かわさきの事業報告のほか、会員などからの投稿を掲載し、会員や関係者に情報を提供しました。発送先リストを見直し、2020年3月は郵送178件、メーリングリスト配信62件の合計240件に発信をしました。また145月号(2019年12月号)から、ネット印刷を利用したカラープリントとなったので、見やすいと好評です。

メサ・グランデのホームページを新しく開設し、ブログ、フェイスブックページなどSNSの活用を進めています。ぐらす・かわさきのホームページは、情報更新が滞りがちなことが課題です。

②20周年に向けた資料の取りまとめ

2021年のぐらす・かわさき創立20周年に向けて、これまでぐらす・かわさきと関わりのあった人や団体の活動について取りまとめをする一環として、総会時に時系列や場所ごとに人や団体とのつながりの記憶を呼び覚ます作業を行いました。これまでの活動を振り返る記念誌の作成を日本女子大学薬袋ゼミの協力を得て行えるよう、調整を進めました。2020年3月にはコミュニティビジネス講座修了生などとの交流会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症対策による自粛要請で中止にせざるを得ませんでした。

③講座開催・講師派遣

今年度は実施しませんでした。

④行政などに関わる委員会への参加

国分寺市協働事業審査会（田代）(5/28、8/27、10/15)

かわさき市民公益活動助成金審査委員会（池上）(4/7・13・14、1/30、3/2)

多摩区子ども総合支援連携会議（町田）(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催予定の会議は中止)